

皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

現在の皮膚の3大敵:紫外線、酸化、合成界面活性剤

皮膚を大敵から守り、健康な素肌、美しい素肌、肌トラブルのない肌・化粧映えのする肌にするためには、大敵とは何かを知ることです。従来皮膚の大敵は、紫外線・酸化・乾燥と言われてきましたが、現在皮膚の大敵は「紫外線と酸化」と「合成界面活性剤」で、乾燥は結果論となります。

1. ヒトの遠い祖先が陸に上がった太古の時代から言われている肌の大敵は日射に含まれる紫外線の影響で、
2. 空気中や体内の酸素が活性酸素に変わること、DNA を損傷させることです。
3. 特に、活性酸素が、皮脂や細胞間脂質や角質細胞を構成している脂質などと結合して、
4. 脂質の酸化、過酸化脂質が生成されると、
5. 「肌を守る」という皮膚バリアが壊れます。
6. 皮膚バリアが壊れると、紫外線をはじめ様々な異物侵入・水分蒸散を防止するという皮膚のバリア機能が低下します。
7. この皮膚バリア機能が低下すると、「角質の水分保持能の低下」水分喪失による乾燥や炎症が起きます。
8. すると、健康な素肌、美しい素肌、肌トラブルのない肌・化粧映えのする肌でなくなります。
9. このように、肌にとっての大敵は、紫外線とその影響による活性酸素の発生、この2つですが、実はもう一つ注目を集めているのが、皮膚の脂質を溶出させる合成界面活性剤の存在があります。

ももとのスキンケアの考え方は、「肌を守る」ことが主な目的でした。しかし、20世紀に入ってから、社会的、文化的な変化や広告・宣伝の発展や、科学的な美容研究の進展、特に合成界面活性剤を応用した美容技術の進歩などを背景にして、スキンケアの基本手順「クレンジング・洗顔後、化粧水→美容液→乳液という順番」が確立された欧米などで、スキンケアの目的が「美しさを保つ」にシフトしました。日本では1960年代にこの基本手順が普及しました。

それ以前は、合成界面活性剤不使用の天然成分だけを使ったシンプルなケア「肌を守る」が主流でしたが、特に合成界面活性剤を応用した美容技術の進歩などを背景にして、より効果的なスキンケア製品が開発されるようになりました。その合成界面活性剤が皮膚の脂質を溶出させ、皮膚バリアを壊し乾燥・炎症を引き起こすため、肌の大敵という存在になっているのです。

皮膚は、主たる外的要因「紫外線と活性酸素と合成界面活性剤」から「肌を守る」重要な役割を果たします。また、皮膚のバリア機能は「素肌美」、「トラブル肌の改善」、「メイク映えする肌」の基盤としても重要です。そのバリアとしての皮膚を作っているのは、ホメオスタシスとオーンオーバーの連携です。この力は加齢とともに衰え、それを補うのがスキンケアです。

21世紀の現在では、スキンケアは「美しさを保つ」や「肌を守る」というどちらからではなく、「肌を守る」を重視し、「美しさを保つ」方向に、つまり、自然の恵み、天然成分だけを使ったケア、例えば、リノール酸含有の合成界面活性剤不要のエマルジョン化粧品を使ったシンプルケアで、「健康な肌を維持して、美しさを保つ」方向に、大きくシフトしています。時代が変わってもスキンケアの基本は「肌を守る」ことにあり、その上で「美しさを保つ」ことが追求されています。